



Hope for Tomorrow は設立後3年目を迎え、皆様のご支援のおかげで充実した活動を行うことができました。改めて感謝の意をお伝えいたしたいと思えます。

まず、被災地の福島県、宮城県、岩手県の計5高等学校の先生方のご協力を得て、支援を必要とする133名の生徒を選定し計400万円の資金援助を行いました。

また「海外交流支援」として行っていたイェール大学の学生とのビデオ通話による交流と米国訪問プログラムは終了しましたので、海外交流支援と外国語習得支援を統合して『国際交流支援』に改めました。これからも被災地の学校の要望を取り入れつつ、引き続き生徒たちが参加しやすいプログラムの提供を行ってまいりたいと思えます。

なお、Hope for Tomorrow は昨年11月18日付で東京都により認定特定非営利法人の申請が認められ、事後皆様のご支援に税制上の優遇措置の適用が可能になりましたことも併せて報告いたします。

震災後、はや丸3年を超える歳月が経過しましたが、未だ震災の重い爪痕が色々なところに残っているのは心が痛みます。私たちの活動は極めて小規模なものではありますが、皆様と共に未来を託すにふさわしい生徒たちの進学を支援できることは大きな喜びです。今後さらに充実した活動を続け、明年再び皆様にご報告できることを楽しみにしています。

2014年5月吉日
代表理事 田中 均

【2013年度（2013年4月～2014年3月）活動報告】

I. 進学支援

2013年度 進学支援	福島県		宮城県		岩手県	
	合計	原町高校	石巻高校	気仙沼高校	高田高校	大船渡高校
生徒数	133	29	10	48	22	24
支援額	¥4,000,000	¥1,011,000	¥500,000	¥480,000	¥1,001,000	¥1,008,000

受験費用を援助する進学支援は、過去2年度と同様の上記5校に行いました。今回の支援対象となった生徒は、中学卒業を目前に震災を体験し混乱の続く中で高校に入学しました。そして震災の余波を様々な形で被りながらも、生徒互いに励まし合い学校内外からのサポートを受けて前向きに高校生活を送ってきました。彼らが無事に卒業を迎え希望を持って旅立つことができ感慨深いと先生方は語る一方、未だ仮設住宅で生活する生徒や経済的に悪化し安定していない状況の保護者などが依然として多数いる現状を杞憂されていました。これまで無償提供の模擬試験代などの有料化、受験料・入学金を免除にする大学や奨学金の減少など受験生を取り巻く環境は厳しくなるなかで、私達の行う進学支援の継続を期待する声が大きくなっています。

進学支援を受けた生徒・先生からのメッセージ

生徒が書いた高校生活の感想や今後の抱負と各高校の先生方からの現状報告等の一部を紹介します。

<http://hope-tomorrow.jp/report/>に生徒達からのメッセージを全て掲載しますのでご覧ください。

福島県立原町高等学校

- ◇ 震災後私は家族と共に新潟県に避難し高校に通いました。見知らぬ土地はとても不安でしたが、皆親切で温かく接してくれました。その後高校が再開されると聞き福島に戻りましたが、別の高校を間借りしていたので、学校生活は不自由なものでした。大学では今の自分があるのは支援して下さった方々のお蔭だということをお忘れずに農業について学び、卒業後は地元に戻り農業関連の仕事に就き、農業を通して福島県の復興に尽力し、少しでも恩返しができると思っています。支援を受けたことをお忘れずに、感謝しこれからの生活を送るとともに、支援が必要な人がいれば積極的に支援したいです。
- ◇ 今回進学支援をいただいたことにとても感謝しています。震災後どうなるか分からない日が続きましたが、原町高校で学校生活を送ることができました。なれないバス通学や仮校舎での生活にはストレスを感じることがありましたが、周りの人や学校の助けがあったお蔭で勉強ができるのだと感じると感謝しきれない思いがあります。3年間はあっという間に過ぎたことに少し驚きがありますが、日々の学習に一生懸命に取り組めたことに充実感があり、仲間との行事での思い出は一生心に残る大切なものになりました。受験は緊張せず自分の力を出し切れて悔いなく終わることができました。大学6年間では勉学に励みながら人として成長できるようにしたいです。
- 震災の影響で失職や収入の大幅の減少を強いられた保護者が目立ちます。また勤務地の変更やその繰り返しを強いられ収入が安定しない保護者、単身赴任の保護者も多いのが現状です。ほぼ100%の生徒が受験するので今後も支援をお願いしたいです。このご支援には生徒、保護者共にとても助かり、感謝しています。(3学年主任 阿部賢一先生)

宮城県石巻高等学校

- ◇ 高校入試の合格発表を目前に控えた状態で、私は被災しました。幸い津波の被害は免れましたが、地震で家は全壊状態、避難所生活がしばらく続きました。不安な気持ちを家族に見せまいと笑顔を絶やさぬ事だけはどんな時も心に留めていました。遅れて行われた高校入学式に参加できたことは今でも鮮明に覚えています。感極まる思いでした。入学後も家族、友人、先生方、地域の方々、その他にも日本全国、世界中の方々からの温かい励ましの言葉や支援をいただき、無事に大学入試を受ける事ができました。たくさんの方々への感謝の思いをお忘れず、少しずつでも社会に恩返ししていきたいと思っています。

- ◇ 震災によって自宅が被災し、十分に勉強する時間も場所ありませんでした。しかし、たくさんの人に支援してもらい、無事受験を終える事ができました。とても感謝しています。この震災は私たちに多くの困難を与えましたが、同時に人と人の絆、苦難を乗り越える力等、多くの事を学んだ気がしました。大学では、地元の復興に役立てるような人間になるために勉強をより一層頑張っていきたいです。
- 震災により自宅が被害を受けた生徒は、全体の69.2%にのぼり、生計維持者の収入が減少した家庭は未だ25%に及びます。震災体験が年少になるにつれて、精神的なケアも広汎かつ繊細な対応が求められています。家庭の経済力が依然回復しないので、可能な限り支援の継続を願っています。生徒や保護者からも本当に感謝された支援でした。有難うございました。(進路指導部長 友永能久先生)

宮城県気仙沼高等学校

- ◇ 震災によって自宅が全壊流出し、当初は学校から約20kmの親戚の家から通学していた。しかし、通学が不便であるなどの理由で、やむなく仮設住宅に引っ越した。仮設住宅での生活は想像以上に大変であった。もちろん自分の部屋はないので、勉強面での工夫が必要であった。家族がテレビを見ていない時や、学校の自習室など、集中できる時間、場所をみつけてコツコツと勉強に励んだ。学校生活では、自分と同じように被災した友人も多く、辛い想いを分かち合うことができた。理学療法士になるため、これからも被災者として頑張っていきたい。
- ◇ 震災があり、みなそれぞれ苦しかったこと、思い返したくない出来事がたくさんありました。そんな中入学した気仙沼高校。震災の影響で普段出来ていた事が出来なくなったり、修学旅行が短縮されたりと残念な事が多々ありました。それに加え、高校2年生から親が出稼ぎのため、一人で気仙沼の祖母の家に残ることを決心しました。親がいない事は想像以上に大変で今となっては自分でもよく頑張ったと思います。そんな思いをした高校生活は忘れる事の出来ないものとなりました。支えてくれた方々には本当に感謝しています。
- 4割程度の生徒が被災し、現在も仮設に住んでいて家庭学習環境が整っていない生徒が多数います。また経済的に低下しているため、進路を変える生徒も出ています。隔たれた地域のため受験にかかる費用がより大きいので、受験費用の支援は現実的であり、支援を求める生徒が多いのが現状です。大変有難いと感じております。今後も多くの生徒にご支援お願いいたします。(3学年主任 国分雅輝先生)

- ◇ 震災後は様々な支援のお蔭で学校生活を送ることができ、多くの人に支えられていることを実感した。Hope for Tomorrow による支援のお蔭で受験料の負担を減らすことができたので、幾つか受験することができ、可能性が広がった。将来、立派な大人になり、支援を受けるに値した人間であったと思われるようになりたい。そして未来を背負う子供たちに少しでも関わっていきたくて考えている。
- ◇ 異例の5月からスタートした高校生活。不安と緊張の中で日々が過ぎていったことを今でも覚えています。明るい高校生活を送ろうと学校全体が一体となって前進していく姿はとても印象的でした。受験生としての1年間は毎日がとても大切で充実していました。今後は介護福祉士として働くことを目標にして勉強に励みたいと思います。夢が実現した際には、地元で貢献できる存在になりたいです。
- 多くの生徒が「当たり前の学校生活」に感謝の気持ちを持ち、将来の高田を支える人材になりたいと口々に話します。来年度から授業料以外にかかる学習経費が多くなるので、ぜひ支援の継続をお願いしたいです。未来の高田にご支援いただき本当に有難うございました。(3学年担任 小笠原裕子先生)

II. 国際交流支援

英語個別レッスンでは、気仙沼高校と高田高校の生徒に対して、英語で行う個人指導を週1回 1~2時間行いました。ボランティア講師の方が生徒と話し合っただけでなく、講師の方々との交流を通して多くの事を得ているようです。なおビデオ通話を使った国際交流支援において、岩手県立高田高校にはPC2台と毎月の光回線使用料を支援しています。

本年7月中旬に『日米高校生サミット in 陸前高田』をNPO法人AidTAKATA他と共催します。国際交流基金の招待で来日した米国高校生と陸前高田の高校生が交流し互いの理解を深める機会であり、被災地の高校生が海外とのつながりを体感し、語学など自己研鑽を進めるきっかけにできればと考えます。

国際交流支援に参加した生徒と保護者からのお手紙

清水裕香子さん（気仙沼高校卒業）

先行き不安のままスタートした高校生活ではありましたが、始まってみればすごく楽しい毎日を送ることができ、私はこの3年間の中で得たものがあります。

まずはHope for Tomorrowの方々を始めとするような社会貢献活動をしていらっしゃるみなさんとのつながりです。震災以前はNPOやNGOなどの団体を少し遠い存在に思っていました。しかし、震災後ボランティアワーカーの方々と関わる中で、本当に誰かを想って行動している人々の強さや素晴らしさを、支えられ

- ◇ 震災によって家が全て流され、経済的にも精神的にも追い込まれながらも親のお蔭で大学に行かせてもらうことができました。負担になるところをこの様な支援をしてくださるのは、経済的にも精神的にも非常に助かります。本当に有難うございました。大学では学び親に恩返しができるように精一杯頑張りたいと思います。
- ◇ 震災後はそれまでにも増して母への負担が様々な形で増えていたので、この支援により大学受験による金銭的な負担が少しでも減ったのでとてもありがたいです。私は自分の身近な人だけでなく、このような支援をして下さる方々にも支えられているということを実感し、大学での4年間を少しも無駄にせず、自分の力でできるように努力していきます。支援いただきありがとうございます。
- 震災から3年が経過した今も、仮設住宅での生活をしている生徒が多く、亡くなられた保護者、失職等で家計状況が苦しい世帯も多くなっています。皆様のご支援のお蔭で進学を断念することなく受験機会を確保できましたことに、心より感謝を申し上げます。今後も進学に関する支援を継続して頂けると大変有難いです。(進路指導主事 高橋知己先生)

た側としても改めて考えさせられることが多々ありました。私ももっと自分の力を身につけて、こういう風に支えてあげられる人間になりたいと思うようになりましたし、いつか社会に出た時には、お世話になった方々に恩返しができるような大人になりたいです。

次に「英語を勉強することの楽しみ」を知りました。私は正直、中学生の時一番英語が苦手でした。しかし、アメリカ短期留学の機会を得て懸命に英語を勉強しました。あんなに苦手で嫌いな部類だったのに改めてやってみると面白く、英語を話すことが楽しくなりました。今では一番好きで得意な教科になりました。大学

では英語を軸として社会のことや他の言語も学び、これからも努力して大学在学中にまた留学したいと考えています！

私は大学進学で地元気仙沼からは離れることとなります。実際に復興の様子などを見ながら暮らす、という事が出来なくなってしまいますが、地元を離れても被災地での出来事を忘れずに生きていきたいです。そして、別所から気仙沼を、(留学すると思うので)世界から日本を見て、良い所を再発見し、それを活かして私もいつか復興の一助になりたいと思います。

約3年間のご支援ありがとうございました。また会う機会がありましたら、どうぞ宜しくお願いします。

2年前の海外交流プログラムに参加させていただいてから今にいたるまで本当に沢山のご支援やビデオ通話を通して英語を話す楽しさを教えていただき本当に感謝いたします。

娘は今、東北大学の文学部に入学し、深く語学を学び母校で英語教師になることが目標と話しておりました。大学4年間で学び、人と出会うことで、また道が違って行くことにあるでしょうが、いつでも“千秋の応援団”でいたいと思います。皆様には、いつも心にとめていただき深く感謝いたします。

2013年度会計報告

(2013年4月1日～2014年3月31日)

収入の部	
1. 寄付金募集事業	
進学支援	1,335,570
国際交流支援	50,000
全ての支援	2,681,000
銀行利息	593
計	¥4,067,163
2. 募集事業以外(運営管理費用)	
理事からの拠出	276,311
計	¥276,311

支出の部	
1. 事業費	
I. 進学支援	
5校(133名分)	4,000,000
銀行振込手数料	36,190
II. 国際交流支援	
交通費(前年度米国訪問H24.4.7指定席代)	2,040
光回線使用料	64,071
事業費計	¥4,102,301
2. 運営管理費	
通信運搬費(電話・郵送・サイト運営費)	43,196
旅費交通費	101,254
消耗品・事務用品	4,991
手数料(残高証明等)	2,705
租税公課	2,600
雑費(印刷・コピー他)	63,770
運営管理費計	¥218,516

寄付公表者(敬称略)

二日間だけの日本インド会社(¥400,000)
 JETAA(Heartland Chapter) (US\$200=¥15,570)
 鳥生哲也(¥10,000) 白井忠弘(¥10,000)
 梶谷純子(¥20,000) 角田敏子(¥10,000)
 葛城洋子(¥10,000) 伊藤玄二(¥50,000)
 菅原良子(¥10,000) 村岸律子

皆様からの寄付は、総額4,066,570円となり、事業費支出は4,102,301円となりました。前受金1,430,000円を除く次年度への繰越金は1,155,455円となります。なお、1月から3月末迄の入金は繰越金となります。

運営管理費は前年度未払金を含めた支出が263,105円となり、理事からの拠出と前年度からの繰越金で賄い次年度への繰り越しは29,687円となります。日常の通信費・交通費等は全額理事個人の負担とし計上していません。

【寄付金振込先】

三井住友銀行
 本店営業部(支店番号:200)
 口座番号:普通預金 2365928
 口座名称:特定非営利活動法人 Hope for Tomorrow
 口座カナ:トクホ)ホープフオートウマロー

ゆうちょ銀行 ○一九店(店番:019)
 口座番号:当座預金 0385960
 口座名称:NPO法人 Hope for Tomorrow
 口座カナ:トクヒ)ホープフオートウマロー
 ※郵便局ATM、ゆうちょ銀行の振替払込書で送金する場合
 口座記号番号:00130-0-385960

特定非営利活動法人
 Hope for Tomorrow
 (ホープ フォー トウマロー)

Tel/Fax 03-6407-0936
 info@hope-tomorrow.jp
 http://hope-tomorrow.jp